

Shanti
国際ボランティア会

年次報告書

2018

Shanti
2019年5月1日発行 増刊 通巻300号
1985年6月28日第三種郵便物許可 ISSN1343-4748本
の
力
を
、
生
き
る
力
に
。

公益社団法人

Shanti
国際ボランティア会

Shanti Volunteer Association

「おひさまいろのきもの」
作・絵：広野 多珂子（福音館書店）
©Yoshifumi Kawabata

どの民族の踊りもすばらしかった。 くらべることもなんてできないよ。 でも、やっぱり自分たちの民族が 好き。

これは「難民子ども文化祭」に参加したモン族の男の子(8歳)の言葉です。一見、取るに足らないセリフに聞こえるかもしれませんが、でも、難民キャンプで暮らす子どもたちにとってはとても重要な意味を持ちます。なぜなら、自分たちの文化的アイデンティティに誇りを持つと同時に、異なる他者への理解と尊重を学び取った何よりの証だからです。

故郷を離れ隔離されたキャンプで暮らす子どもたちは、自分たちの文化に触れ、学ぶ機会が限られています。アイデンティティ、つまり「自分はいったい何者なのか」ということに自信を持てないまま生きることを余儀なくされています。人間にとってこれほど不安なことはいないでしょう。

想像してみてください。母語の通じない異文化の中で暮らすことを強いられたとしたら。人が人らしく生きるためには、衣食住と同じくらい、アイデンティティを確立することが重要なのです。

「難民子ども文化祭」では、子どもたちは大人から自分たちの伝統舞踏や歌を教わり、練習に励み、その過程で自分たちのアイデンティティを認識します。そして、ステージでダンスを披露する他の民族の文化に触れることで、互いの文化を知り尊重することを学びます。これらはきっと、子どもたちが平和な未来を築く礎となるはずです。

図書館ユースボランティアとして参加したエ・ダウ・ウェルさんは言います。

「ふだん図書館で見かけない子どもたちも民族の垣根を超えて活動しているのを目にして、この文化祭が果たす大きな役割を実感しました。」

キャンプでは現在帰還に向けた動きが進むと同時に、将来への不安が増えています。そのような中で、このイベントはキャンプで暮らす大人たちにとっても、自分自身の文化的アイデンティティを見つめ直す貴重な場になっているのです。



民族伝統の衣装を身にまとったモン族の家族
2018年ミャンマー（ビルマ）難民キャンプで撮影
©Yoshifumi Kawabata

シャンティの目指す姿、活動

共に生き、共に学ぶ。

世界には、紛争、貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会をつくりたい。シャンティは、人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していく NGO となります。

シャンティの使命

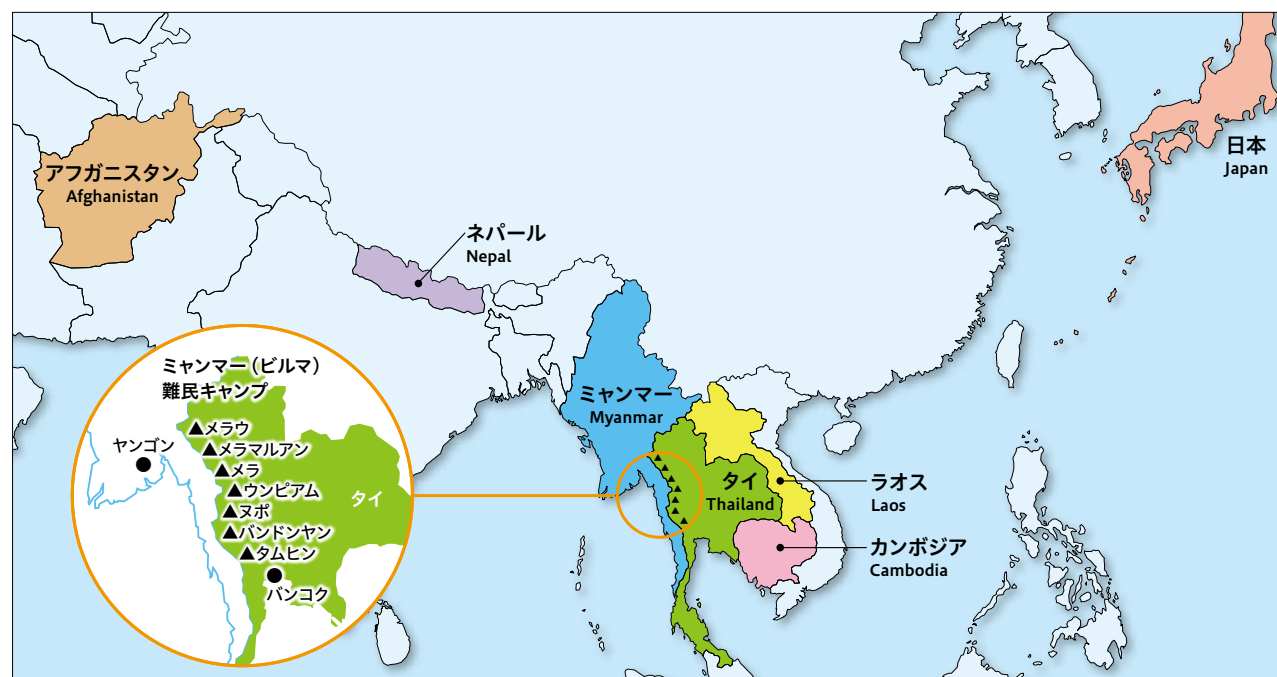
人間の尊厳と多様性を尊び、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会を実現します。

シャンティが目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していく NGO となります。

シャンティの基本姿勢

- 1 苦難の中にいる人々と、痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、共に歩みます。
- 2 地域の伝統的な文化を重視し、民族、宗教、言語の違いを尊重します。
- 3 人々が自ら気づき、行動し、自立へと向かう開発を重視します。
- 4 互いに支えあい、高めあうための触媒としての役割を果たします。



シャンティの活動地域

2030年までの達成を目指す「持続可能な開発目標(SDGs)」

● シャンティが関係している「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。シャンティは「目標4、

質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決に取り組むだけでなく、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。



子どもたちが安心して学べる環境をつくるために。

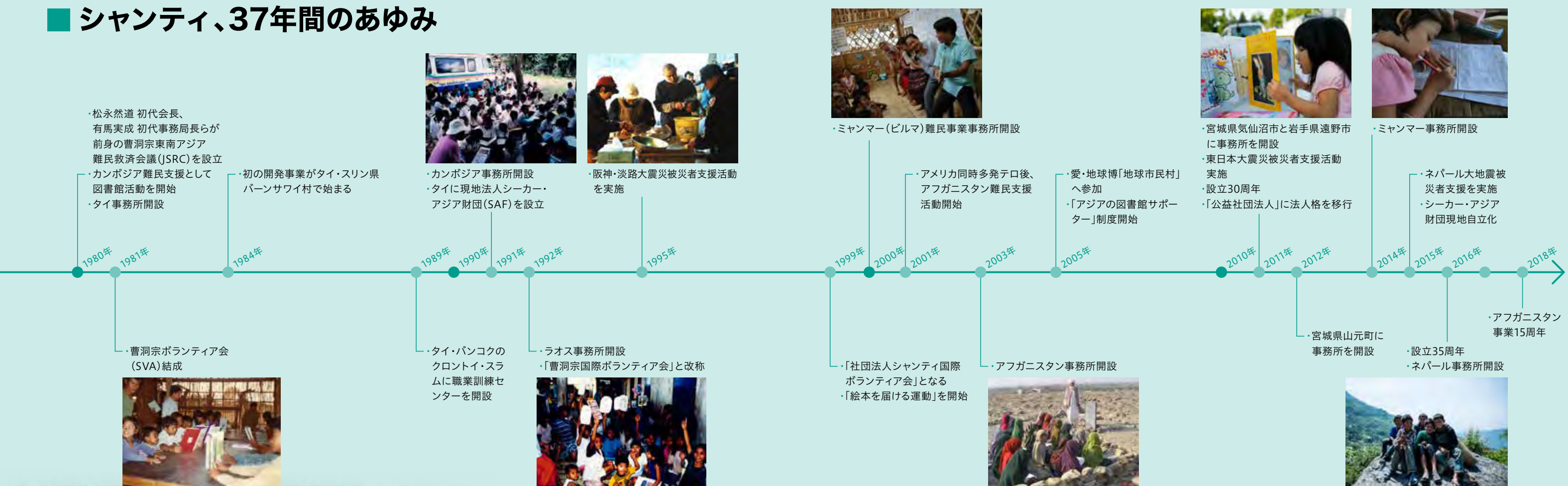
安心して学ぶことができる場所、学ぶための本、子どもに正しい学びを伝える人。どれが欠けても子どもたちが安心して学べる環境はつくれません。

シャンティは、この環境づくりを活動の3本柱とし、現地の行政や住民と一体となって教育支援活動を行っています。



シャンティが行う活動の3つの柱とステークホルダー

■ シャンティ、37年間のあゆみ



活動実績		2018年度	通算
実績1 本を読む機会を届ける			
絵本出版：	21タイトル	493タイトル	
届けた絵本：	18,492冊	312,236冊	
図書館利用者：	79万人	1,348万人	
実績2 人を育てる			
研修参加者：	2,309人	544回／ 33,202人	
実績3 安心できる場づくり			
学校建設：	13校	403校	
図書館・図書室設置：	36館・室	876館・室	
実績4 緊急救援			
緊急救援出動回数：	3回(海外2回、国内1回)	67回(海外41回、国内26回)	

ごあいさつ

会長 若林 恭英

日頃変わらぬご理解とご支援をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。教育文化の支援は一朝一夕で成るものではありませんが、成果とおぼしきものもいくつかあります。ラオスのスニター・ピンマソンさんは、子どものころ、たまたま通りかかったシャンティ支援の「子どもの家」(子どもたちが自由に出入りできる学習センター)に興味を覚えて毎日のように通い、やがて奨学金を受けて大学卒業まで学ぶことができました。現在はラオス国営放送のニュースキャスターを勤め、私設の子どもの家まで運営するようになりました。後に続く若い世代の子どもたちの将来への夢を育む場ができたことはシャンティ(平和)な社会実現の小さな一歩として応援して行ければと考えています。

また、先の西日本豪雨が各国のニュースに取り上げられ、カンボジアの今まで縁のあった各小学校の子どもたちから「PRAY FOR JAPAN」のメッセージが現地事務所に届けられました。国境を越えた交流こそが平和な社会実現へのプロセスだと信じます。シャンティの活動は、ご支援くださる皆様と共に、その意味を問いながら平和な社会実現に向け歩み続けて行きたいと念じています。



若林恭英



人々の声



ノーブイゲーさん (15 歳)
中学 2 年生
両親が国籍の手続き知らなかったため、私たち家族は全員国籍を持っていません。無国籍者は保険に入らず、治療費や薬代が高くなってしまいます。少しでも家計を助けるため、私は奨学金に応募しました。将来は CA になって、大好きな日本に行ってみたいです。



1 ターク県での奨学金授与式の様子
2 シーカー・アジア財団 (SAF) 職員

現状

チェンライ県には無国籍の山岳少数民族や隣国からの不法移民が多数います。2018 年 7 月同県タムルアン洞窟で遭難し、奇跡的に発見、救助された少年サッカーチーム選手 3 人及びアシスタントコーチ 1 人も無国籍でしたが、翌月タイ国籍を取得しました。SAF の奨学金支援を受けている学生の中にも無国籍者がおり、今後状況を注視していく方針です。政治においては現在も軍事政権が続いていますが、12 月によりやく政治活動が解禁されました。2019 年の総選挙以後、言論統制によって抑え込まれていた国民の声が明らかとなります。また外国人就労に関しては、禁止されていた 39 業種のうち 12 業種が承認されるなど規制緩和が進んでいます。

事業

●**教育の機会改善事業**
(バヤオ県、ターク県、バンコク・スラム地区及び貧困地域)
中高生 438 人に奨学金を授与しました (バンコク 68、ターク 194、バヤオ 176)。2 月には対象 3 地域で家庭訪問を実施、4 月に新規奨学生 (中高生) の選定を行いました。
バンコク、ターク、バヤオにて奨学金授与式を開催しました。バンコクではニコン・タイランド、日本国大使館、日本人会から、タークでは (株) ニコンからご来賓をお迎えしました。8 月前半、バヤオ県のシャンティ学生寮にて奨学生合

同ワークキャンプを開催、計 100 人が参加し、田植えや伝統舞踏の発表が行われました。

●移動図書館活動を通じた教育の質改善事業

バンコク・スラム地区、サムットサーコーン県マハーチャイ地区、ターク県メーソット郡、ナコーンパトム県のろう学校にて計 145 回活動を行いました。受益者数は計 17,689 人です。またバンコク・テーブラクサー地区にてこどもの日イベントを開催しました。テーブラクサー地区はミャンマー人向けの学校施設がなく子どもたちは教育を受ける機会がありません。児童労働の実態もあり、来年度は子どもたちの置かれている状況を調査する予定です。

実績

 図書館活動参加者：27,413 人

 奨学金支給者：461 人



人々の声



イエン・サウタイさん (12 歳)
小学 6 年生
友だちはみんな新しい教室で勉強ができることをとても楽しみにしています。前から夢見ていたきれいな教室ときれいな机をできる限り掃除して、きれいに扱います。将来は学校の先生になって、知識を未来の世代に伝えたいです。



1 子どもたちに絵本を読み聞かせている図書館員
2 カンボジア事務所職員

現状

7 月に下院選挙が行われ、9 月にはカンボジア人民党が勝利し新政府が設立されました。しかし、閣僚の顔ぶれは変わらず、最大野党の指導者は未だ監視下に置かれるなど、政治状況は安定しません。教育面では、就学前及び小学校教育の学習環境改善がなされたというものの、12 歳で小学校を卒業した子どもの数は 40% 前後と低い状況です。経済成長は 7% と好調ですが、教育面においてはまだまだ多くの支援が必要な状況です。

事業

●**小学校建設活動**
バッタンバン州とシェムリアップ州内にある 4 校の建設と 2 校の修繕を 12 月末までに実施、完了しました。
●**図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンター (CLC) 事業**
5 月に各州の州教育局へ CLC を引き渡すセレモニーが行われました。
図書館司書と運営委員会に対するワークショップが開催され、貸し出しサービスがスタート。農業普及員に対する養鶏トレーニングも行われ、何人かは市場出荷という成果につながりました。

課題 スタッフの仕事量が増え、計画通り実施できなかった活動もありました。CLC 運営委員会の能力強化が必要です。

●バッタンバン州の公立幼稚園における幼児教育の質の改善事業

2017 年末から 2018 年にかけて対象校のモニタリングを行いました。1 月 24 日から約 1 週間、事業協力者である天竜厚生会が現地視察を行い、幼児教育への理解促進や活動計画の実践確認をしました。カウンターパートと協力して会議の運営や滞在中のサポートを行いました。バッタンバン中央幼稚園がグッドスクール賞に選ばれ、3 月にプノンペンで授賞式が行われました。州／郡教育局のトレーナー及び教育省幼児教育局の職員に対するマニュアル及びガイドブックに関する最終フォローアップ研修を 6 月に実施しました。

課題 教員の交代や退職があった際には、新しい教員への技術指導が必要になります。

実績

 図書館活動参加者：72,484 人

 研修会参加者：904 人

 学校建設：4 校



人々の声



ボニョン先生 (28 歳)
ハッサン小学校
読書推進活動の研修会で、読書の重要性だけでなく、本の管理や登録方法などを教わりました。児童の多くはカム族で、ラオス語が母語ではないため、言葉を学習するのに絵本がとても役立っています。



1 先生による読み聞かせ（「おおきなかぶ」福音館書店）
2 ラオス事務所職員

現状

新たにブルー族が民族として承認され、ラオスの公式な民族数は 50 となりました。

教育スポーツ省は初等教育のカリキュラム、教科書、指導要領や教材の改訂を進めています。この一連の改訂に合わせ、シャンティの複式学級運営改善事業を進めていくことで教育の質の向上への大きな成果が期待できます。一方、教育関連予算は教育スポーツ省が掲げる「教育セクター開発 5 カ年計画 (2016-2020)」の目標値を下回っている状況です。

事業

●ラオス北部地域の教員養成校指導教官の能力強化を通じた、複式学級運営改善事業

7 月に教育スポーツ省と新たに覚書を交わし、8 月から事業がスタート。キックオフ会議には行政や教育機関の関係者が参加し、事業対象地の教員養成校 2 校と小学校 32 校におけるベースライン調査を実施しました。

北海道教育大学の協力のもと、教育スポーツ省と県教育スポーツ局の職員や教員養成校教官の計 8 人を日本に招き、僻地・複式学級指導の対象小学校を訪問、研究大会参加を含む研修を実施しました。

第 1 フェーズで開発した「複式学級運営の手引き」の改訂作業を開始しました。

●移動図書館を通じた読書推進活動

絵本 2 タイトル、計 4,000 冊の再版を行いました。

新規事業対象地のルアンパバーン県パクセン郡にて読書推進研修会を実施、24 校から 72 人の教員が参加しました。また 12 校への移動図書館活動を 3 回ずつ実施し、のべ 2,091 人の児童と 147 人の教員と住民が参加、計 866 冊が貸出されました。

課題 教員に読書活動の重要性や効果をより正しく理解してもらうため、フォローアップを実施していく必要があります。

●学校建設活動

2017 年建設対象 2 校で竣工 1 年後検査を実施し、補修作業を行いました。

2018 年建設対象 2 校で 3 教室 1 棟の建設を開始しました。

課題 建設対象校選定に時間を要し、近年まれにみる豪雨の影響により、着工に遅延が生じました。

実績



図書館活動参加者：2,091 人



研修会参加者：72 人



学校建設：2 校



人々の声



モゼさん (53 歳)
バンドンヤン難民キャンプ
NGO の農業職員として働いています。図書館は私が知らなかった役立つ情報を提供してくれるので、私にとって大切な場所です。もし、図書館がなければ、私たちは外の世界を知らない人になってしまいます。



1 図書館活動を支えるメンバーが参加する 4 半期会議の様子
2 ミャンマー (ビルマ) 難民事務所職員

現状

難民キャンプでは徐々に組織的帰還が実施されていますが、帰還先での生計手段がないなどから住民の 8 割は帰還を望んでいません。一方、国際 NGO による支援は減少し続け、食糧サービスも大幅に減ることが発表されました。限られた資源を最大限に活かし、彼らが引き続き図書館を利用できるような運営方法について、キャンプ内関係者と協議を重ねています。また、帰還先の支援を視野に入れた新規事業を調整していきます。

事業

●コミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業 (第 6 フェーズ)

7 カ所の難民キャンプに設置されている 21 の図書館で、すべての住民を対象としたコミュニティ図書館活動を実施しました。利用者数は 379,448 人 (子ども 225,183 人、成人 154,265 人) でした。

キャンプで暮らす若者に自己実現の機会を提供する「図書館ユースボランティア」活動に計 170 人が参加。7 キャンプ 90 カ所で計 2,704 回の読書推進活動が実施され、88,987 人の子どもたちが参加しました。

学校での読書活動を推進するため、コミュニティ図書館から近隣の計 92 校へ移動図書館活動が実施されました。教員を対象とした読書推進研修を行い、計 249 人が参加しました。

小学校 5 年生向けのカレン語の教科書 5,000 冊、教員指導書 400 冊、絵本 1 タイトル (2 言語) 2,000 冊を印刷しました。

課題 第三国定住や自主的帰還などの理由から図書館員の離職が続ぎ、計 51 人から 31 人に減少しました。各キャンプの図書館委員会は、残った図書館員の来年度以降の契約について慎重に検討する必要があります。

また、資金削減により、2019 年度中に事業を縮小する予定です。2019 年からは新たな体制でキャンプの図書館事業を運営していくため、スタッフへのサポートが求められています。

実績



絵本・紙芝居出版：1 タイトル (2 言語) 2,000 冊
図書館活動参加者：421,691 人



研修会参加者：496 人



アフガニスタン

Afghanistan



人々の声



マティウラさん (12 歳)
中学 1 年生

図書館のおかげで、いろいろなものと出会い、多くのことを知りました。特に手工芸を図書館で学んでからは、自分で商品を作って販売し、家族の生活を助けることができるようになりました。



1 学校で読み聞かせをする職員
2 ジャララバード事務所職員 3 カブール事務所職員

現状

政府とタリバン勢力間の争いのみならず、IS など武装勢力の台頭によって紛争の構図は複雑化しています。2018 年 6 月に 3 日間の停戦が実現し、停戦延長を訴える市民運動も相次ぎましたが、10 月に実施された下院選挙では投票所が襲撃を受けるなど、人々は希望を見出しながらも不安を募らせています。活動地の一つであるナンガハル州でも教育施設が襲撃されたため、子ども図書館も数ヶ月は状況を注視して運営に当たりました。

事業

●学校建設を通した初等教育改善事業（フェーズ 4）

カブール市内にあるシャラク・タラ校を対象に、8 教室 1 棟とトイレ 5 部屋 1 棟を建設しました。机、椅子などの備品も供与し、教育省職員、地域の人々を招いて竣工式を開催しました。

完成した校舎で、教員を対象に校舎の維持管理研修を行いました。2019 年 3 月下旬の新学期からは、計 1,906 人の児童が安全な教室で学べる予定です。

課題 深刻な干ばつ被害が発生したため、井戸の修繕を行う必要がありました。

●学校図書室事業（フェーズ 2）

ナンガハル州 14 校では 1 校あたりの月間貸出数の平均値が 251 冊、カブール市内 9 校では 133 冊でした。全体の平均は 208 冊で、昨年の 348 冊から減少しています。

校舎建設を行った 1 校を含め、カブール市の 4 校とナンガハル州の 10 校、計 14 校に図書室を設置し、建設対象校 1 校以外は一般教養研修・図書館員研修を各 1 回実施しました。

●児童の読書推進事業

ジャララバード事務所で運営する子ども図書館は、週末と祝日を除く 237 日開館しました。年間利用者数は 39,829 人に上り、1 日当たり平均 168 人が利用しました。貸出冊数は 11,612 冊でした。また、不就学児童のための特別教室を開講し、40 人が修了しました。昨年参加した子どもたちは今年編入手続きを終え、修了者 40 人のうち 38 人が公立校へ編入しました。

実績

絵本・紙芝居出版：12 タイトル 2,800 冊
図書館活動参加者：39,829 人

研修会参加者：650 人

学校建設：1 校
図書館・図書室設置：14 室



ミャンマー

Myanmar



人々の声



ウソーゾーさん (左)、
ドウワイシェンさん (右)
児童図書出版委員会メンバー

児童図書が一般的ではないミャンマーでのおはなし作りは簡単ではなく、特に作家との共同作業は苦勞しました。子どもたちが知識を得られる様、新しいおはなし作りはこれからも最善を尽くしていきます。



1 新しく学校に設置した図書コーナーで
絵本を読む子どもたち
2 ミャンマー事務所職員

現状

民主化、経済発展の進むミャンマーは、2018 年 GDP 成長率 6.4% を達成しました。一方で、ロヒンギャ問題は未だ解決の糸口が見つかっておらず、政府は欧米社会から強い批判を受けています。日本政府はこの問題とは一線を画し、同国に 1,170 億円を超える政府開発援助 (ODA) を拠出することを決定しました。教育面では JICA の支援を通じ教科書が改訂され、読書や学校図書館の推進が進んでいますが、現場レベルでは様々なリソースが不足しているため、子どもたちが本に親しめる環境づくりを行っています。

事業

●初等教育における読書推進活動

8 つの公立小学校に図書コーナーを設置し、各学校に 667 冊を配架しました。また教員への図書館研修を実施し、43 人が参加しました。他国での経験を活かして作成したミニマムパッケージガイドラインを説明する研修会に、郡教育局の職員や学校長など 56 人が参加しました。また、15 人からなる児童図書出版委員会を発足し、専門家による研修を実施。同委員会が作成した 4 作品が出版されました。14 公共図書館から各 18 校に 3 回ずつ移動図書館活動を実施しました。公共図書館員のためのフォローアップ研修も実施しました。

●学校建設活動

寺院学校 2 校が完成しました。各教室に図書コーナーを設置し、115 タイトル 236 冊を配架しました。

課題 雨期が建設の進捗に大きな影響を与えましたが、地域住民からなる「学校建設委員会」と協力して対処しました。

●東バゴー地域における読書推進活動

8 つの公共図書館に移動図書館バイクと 479 冊の本を配架しました。公共図書館員へ読み聞かせ研修を実施し 23 人が参加。移動図書館活動対象校の教員に公共図書館員から読み聞かせの指導を行いました。各校平均 4 人がこの指導を受けました。

課題 洪水の影響で 20 冊以上が泥水に浸かりました。

実績

絵本・紙芝居出版：6 タイトル 21,510 冊
図書館活動参加者：229,530 人

研修会参加者：137 人

学校建設：3 校
図書館・図書室設置：8 室



ネパール

Nepal

ヌワコット ● ● ラスワ
カトマンズ

！ 緊急救援

Emergency Relief

人々の声



ビビシャ・ビシュアカルマさん (00 歳)
小学 5 年生

地震の後は教室が無くなりとても大変でした。1 カ月くらい学校が閉鎖され、再開しても仮設校舎で勉強しました。今は新しい教室ができてとてもわくわくしています。好きな教科は英語で、将来は医師になりたいです。



1 コミュニティハザードマップを作成する児童と職員
2 ネパール事務所職員



1



1 衛生啓発研修に参加する
帰還民と国内避難民の女
性たち(アフガニスタン)
2 カウンターパート NGO から
緊急支援物資を受け取る
被災者(インドネシア)



3



4

3 避難所での傾聴カフェ
(平成 30 年 7 月豪雨災害
支援)
4 みんなで作ったご飯を食
べている様子(西原村・
気仙沼交流プログラム)

現状

震災復興はまだ途上で、壊れた 74 万世帯の 45% しか再建できていません。2018 年 2 月共産党政権の発足以後、政治の安定化によって地方分権が本格化し、教育行政機関も各自治体の教育部に改組されましたが、人員・能力の不足が課題です。初等教育純就学率が 97% まで改善されるなど進展が見られますが、退学率の高さや卒業率の低さ、正規教員の不足、所得階層間・男女間・民族間格差などが依然として問題となっています。

事業

●ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業

【学校建設】

ヌワコット郡で 3 校の校舎 19 教室を建設。仮教室で学習していた児童 183 人が安全な校舎で学ぶことができるようになりました。

【図書館活動を通した子どもたちの心のケア、防災教育の実践】

建設対象校 3 校、周辺校 7 校、4 カ所のコミュニティ学習センターへの図書コーナーの設置準備を行いました。図書活動研修を 3 回行い、12 校 47 人の教員が参加しました。子どもの発達における読書の意義や図書コーナーの運営方法、防災紙芝居の演じ方、絵本の読み聞かせなどを学びました。

『地滑り』『地震が起こったらどうする』をテーマにした紙芝居を 2 タイトル発行し、26 の小学校、76 のコミュニティ図書館や学習センターに配布しました。

【対象校における防災計画の策定と、教員・学校運営委員会・地域住民・行政職員の防災に対する理解の向上】

8 校で避難訓練を実施し、460 人の児童と 55 人の教員が参加しました。避難訓練にあわせて保護者への学校防災計画の説明会を行い、25 人の学校運営委員会メンバーや保護者が参加しました。

対象 12 校の高学年児童がコミュニティウォッチングを行い、コミュニティハザードマップを作成し、全児童に発表しました。303 人の児童と 45 人の教員、他 45 人の学校運営委員会メンバーや保護者が参加しました。

課題 雨期の長期化や道路の悪化による校舎建設工事の遅れのため、次年度は工事の着手を早める予定です。ローカルパートナーによるモニタリングの強化、移行期にあたる地方教育行政機関との関係構築が必要です。

実績

絵本・紙芝居出版：2 タイトル 300 冊
研修参加者：50 人

学校建設：3 校
図書コーナー設置：14 校/施設

アフガニスタンの帰還民と国内避難民への緊急救援

アフガニスタンでは、近隣国からの難民の帰還、国内の治安悪化にともなう国内避難民 (IDP) の大量発生、深刻な干ばつなどにより、630 万人もの人々が支援を必要としています。このような状況下で学校に通えず不安定な状況に置かれた帰還民・避難民の子どもたちのために「子どもにやさしい空間 (Child Friendly Space)」を開設し、約 700 人の子どもたちに心理社会的サポートを提供しました。また、子どもの学習機会を保障するため、生徒数が増加して飽和状態の学校に対し、仮設教室の設置作業を進めました。さらに、水衛生事業を開始し、衛生教育を行う 136 人の教師と学校運営委員会に、指導者向け研修を行いました。帰還民と国内避難民の 150 世帯、合計 300 人に衛生啓発研修を行いました。

インドネシア・スラウェシ島地震津波の被災者に対する緊急救援

2018 年 9 月 28 日にインドネシア・スラウェシ島で発生した地震とその後の津波や地滑り、液状化現象に対応するため、被災地域に職員を 4 人派遣し、被害状況の調査および緊急救援物資配布を行いました。食料や衛生用品等の生活必需品を特に支援が必要な合計 1,200 世帯に配布しました。また、各家庭の状況に合わせ、ベビー用品や学用品セット、蚊帳などの追加物資を合計 1,020 世帯に配布しました。

平成 30 年 7 月豪雨災害支援

平成 30 年 7 月豪雨により甚大な被害を受けた愛媛県西予市を中心に、緊急救援担当職員を派遣し、被害状況の調査および物資配布、避難所での傾聴カフェ等の活動を四国地区曹洞宗青年会や地元の読書会のお母さんたちと共に行いました。その後避難所の閉所に合わせ、次の居場所となる仮設住宅集会所の備品整備や仮設住宅にて傾聴カフェの活動を行っています。また、図書室が被災により使えなくなった宇和島市立吉田中学校へ蔵書支援を行いました。

熊本県西原村と宮城県気仙沼市の子どもたちの交流

一般社団法人アイ・オー・イーと特定非営利活動法人浜わらすの協力のもと、熊本地震や東日本大震災で被災した子どもたち同士の交流プログラムを 8 月に気仙沼市で行いました。普段海に触れ合う機会の少ない熊本の子どもたちが、海を見て喜ぶ姿が印象的でした。自然体験や、災害が起こる仕組みを学ぶプログラム、お互いの町の魅力を発表し合うプログラムなどを通して、これからを強く楽しく生きていくつながりができました。

東日本大震災被災者支援活動

Response to the Great East Japan Earthquake

南相馬事務所の機能を東京事務所に統合

2018 年末、南相馬事務所の機能を東京事務所へ統合いたしました。東北 3 県に開設した事務所はすべて閉所いたしました。東京事務所を中心に、今後も東北各所の復興に向けた活動をさまざまな形で応援してまいります。

2016 年 7 月に帰還困難区域を除き避難指示が解除された福島県南相馬市小高区の人口は、発災時の 1 万 2,840 人から 7,966 人に減り、居住者は 3,121 人に留まっています(2019 年 1 月時点)。帰還する方が増える一方、地域の過疎化や高齢化の課題は解決していません。

地元の方を中心とした活動をサポート

南相馬事務所では、故郷に帰ると決めた方たちが少しでも心穏やかに暮らし、地元の方を中心とした活動になるよう、集いの場づくりや魅力の再発見、風化防止の活動をお手伝いしてきました。

「集いの場づくり」として、南相馬市社会福祉協議会が小高区で開いているサロンや南相馬市立図書館の移動図書館車による災害公営住宅への訪問をお手伝いしてきました。また、「子ども支援」として外の環境や大人たちと触れ合う機会が限られている小高幼稚園の子どもたちとの交流や、地元の団体「まなびあい南相馬」による聞き書き活動のサポートを通して、その土地の「魅力を再発見」するお手伝いをしてきました。

地元の復興を「食べて」「使って」応援 好評発売中

気仙沼蔵内産「こいわかめ」

1 袋 500 円(税別) + 送料

津波の後で一艘だけ残った船をもとに漁業の再開を決意した漁師の協業グループ「蔵内之芽組」が育て上げた本場のわかめ。宮城県気仙沼市の蔵内地区の寒流と暖流がぶつかる豊かな海で育ったわかめは、豊富な栄養分を吸収するため、肉厚で歯ごたえがしっかりとした味わい深い「うま味の濃い」わかめに育ちます。



ご注文は「蔵内之芽組」のウェブサイトから

蔵内之芽組

Q 検索

あんでねっと 復興のアクリルたわし

500 円(税別) + 送料

編み物を“あんで、ネットワーク”を広げようと、2011 年から被災地のお母さんたちがコミュニティづくりのために活動してきました。地元の特産品である海の生き物をモチーフにしたアクリルたわしを販売しています。売上は「あんでねっと」の制作者の手間賃とお母さん方の活動費に充てられます。



ご注文は「クラフトエイド」のウェブサイトから

クラフトエイド

Q 検索

数字で見るシャンティの国内活動



絵本を届ける運動

18,492冊/1,944件



メディア掲載

200件



イベント開催

29回/524人



クラフトエイド

取扱53店

期間限定販売17回



講演

123件/24,737人



事務所訪問

9回/36人

クラフトエイド

【取扱店】Today's Special(各店舗) / 尾張屋(宮城県松島町) / 夢工房 MARUYAMA(埼玉県さいたま市) / ウィメンズ・フェアトレードショップ カルテット(埼玉県比企郡) / アーシアンショップちば(千葉県千葉市) / かまくら富士商会(神奈川県鎌倉市) / Teebom(静岡県静岡市)
【期間限定販売】KANEIRI Museum Shop 6(宮城県仙台市) / GALLERY 心(東京都台東区) / 二子玉川 蔦屋家電(東京都世田谷区) / 西武渋谷店(東京都渋谷区) / 恵比寿三越(東京都渋谷区) / 伊勢丹浦和店(埼玉県さいたま市) / イデーショップ ヴァリエテ 渋谷店(東京都渋谷区) / イデーショップ 梅田店(大阪府大阪市) / イオンリテール株式会社(近畿、中国、四国地方など15店舗)

メディア掲載(200件)

NHK BS1 / NHK ラジオ第1 / NHK World / 日本テレビ / テレビ朝日 / 朝日新聞 / 朝日新聞「GLOBE+」 / 読売新聞 / 読売中高生新聞 / 毎日新聞 / 東京新聞 / 中日新聞 / あぶくま時報 / 伊勢新聞 / 岩手日日新聞 / 愛媛新聞 / 紀南新聞 / 神奈川新聞 / 紀州新聞 / 北日本新聞 / 岐阜新聞 / 熊本日日新聞 / 高知新聞 / 信濃毎日新聞 / 市民タイムス / 胆江日日新聞 / 東奥日報 / 東海新報 / 徳島新聞 / 富山新聞 / 長野日報 / 新潟日報 / 福井新聞 / 福祉新聞 / 福島民報 / フジサンケイビジネスアイ / 山陰中央新報 / 山形新聞 / 山口新聞 / タ刊フジ / 米澤新聞 / カトリック新聞 / 仏教タイムス / 中外日報 / プレジデントウーマン / ソナエ / 月刊クーヨン / クロワッサン / 月刊福祉 / 月刊赤ちゃんとママ / 曹洞宗報 / 文化時報 / 週刊現代 / 文春オンライン / リセマム / 絵本ナビ など(重複除く)

イベント開催(29回/524人)

【共催】ひとしずく株式会社 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 一般社団法人養老の森 / ネイチャーランド・オム / 新宿区大久保図書館 / 杉並区宮前図書館 / 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 / 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター / 三井物産株式会社
【出展】アースデー東京 / 第89回メーデー中央大会 / グローバルフェスタ JAPAN 2018

事務所訪問受入(9件/36人)

東京女学館中学校 / お茶の水女子大学付属高校 / 摂南大学 / 桑名市立正和中学校 / 弥富市立弥富北中学校 / 岡山県立岡山操山高等学校 / 都立つばさ総合高等学校 / 神田外国語大学 / アレセイア湘南高等学校 (順不動)

講演(123件/24,737人)

大妻女子大学 / お茶の水女子大学 / 国際基督教大学 / 専修大学 / 拓殖大学 / 東洋大学 / 法政大学 / 明治大学 / 川村学園女子大学 / 明星大学ボランティアセンター / 明石城西高校 / 日本女子大学付属中学校 / 新宿区立四谷第六小学校 / 小平市立上宿小学校 / 調布市立上ノ原小学校 / 高山市立新宮小学校 / 西予市皆田小学校 / 株式会社電通 / ハーゲンダッツ ジャパン株式会社 / 三井住友銀行ボランティア基金 / 森永乳業株式会社 / 森永製菓株式会社 / 株式会社玄米酵素 / JP モルガン証券株式会社 / 花王株式会社 / サントリーホールディングス株式会社 / 株式会社 LIXIL / 株式会社 LIFULL

曹洞宗宗務庁 / 曹洞宗総合研究センター / 曹洞宗婦人会 / 曹洞宗宗務所(北海道第一、青森県、秋田県、山形県第一、山形県第二、山形県第三、福島県、栃木県、群馬県、埼玉県第一・第二、千葉県、東京都、神奈川県第二、長野県第二、新潟県、愛知県第三、愛知県第二、岐阜県、福井県、奈良県、三重県第一、三重県第二、兵庫県第一、兵庫県第二、広島県、鳥取県、島根県第一、島根県第二、熊本県第二) / 曹洞宗教化センター(北海道管区、東北管区、関東管区、東海管区、北信越管区、近畿管区、中国管区、九州管区) 曹洞宗神奈川第二宗務所婦人会 / 曹洞宗千葉県青年会 / 曹洞宗山形宮城福島合同梅花研究会 / 曹洞宗岐阜県宗務所第一教区寺族会 / 曹洞宗長野県第一宗務所第十二教区第五分教区 / 曹洞宗九州梅花大会事務局 / 山形県曹洞宗青年会 / いずも曹洞宗青年会 / 神應院菩提樹の会 / 永平寺 / 願成寺 / 長桂寺 / 東長寺 / 東昌寺 / 丸子寺院の会 / 源正寺 /

JICA 東京 / 松屋旅館 / 東京都社会福祉協議会 城北ブロック会 / 荒川区職員ビジネスカレッジ / 荒川区職員ボランティア協会 / WE21 ジャパン相模原 / WE21 ジャパンとつか / 特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク / 上尾北ロータリークラブ / 上田西ロータリークラブ / 環境・シャボンの会 / 新宿区 / 青年海外協力協会 / 多摩市諏訪 / 馬引沢地区合同防災訓練 / 千代田区ボランティアセンター / 東京ボランティア市民活動センター / 東京倫理法人会 / 静岡県ボランティア協会 / 東京都生活協同組合 / バルシステム埼玉 / バルシステム東京 / 日本ファンドレイジング協会 / ラオス子どもの未来 / 立正佼成会 / 静岡中央図書館 / 南相馬市立図書館 / 埼玉県学校図書館大会 / JP 労組関東エースネットワーク / 九州電力福岡支部ボンシー会 / 日本仕事百貨

あなたもできる 参加方法

絵本を届ける運動

日本で出版された絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、シャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。翻訳シールを貼る作業は、個人でも団体でも気軽にご参加いただけます。1999年に開始し、2019年で20周年を迎えます。

国と地域 カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン、ミャンマー、タイ

翻訳言語 クメール語、ラオス語、カレン語、ビルマ語、ダリ語



「ちびゴリラのちびちび」(ほるぶ出版) ©安井浩美
「ジョジョのかんむり」(福音館書店)

クラフトエイド

クラフトエイドは、子どもの学用品や制服を買うために、家事や畑仕事の合間にアジアの女性たちが、それぞれの民族の特長を活かして手仕事でつくったアイテムを展開するシャンティのフェアトレード事業です。

取扱商品 衣料品、バッグ、アクセサリ、ポーチ、ステーションナリー、マスコット・キーホルダー、リビング・キッチン用品、フェアトレード食品 etc



©Hirokazu Hashimoto

もので寄付するプロジェクト

読み終えた本や使っていない商品券、金券などをお送りいただき、物の買取額を寄付として、子ども支援に活用させていただきます。

本・CD	商品券・金券	それ以外のお宝
- 書籍 - コミック - 音楽CD - DVD・Blu-ray - ゲームソフト・ゲーム機 - スマホ	- 全国共通商品券 - 旅行券 - ビール券/お米券 - 図書券/図書カード - 書き損じはがき - 未使用の切手/はがき	- 金・プラチナ・貴金属・宝石 - ブランド品(バッグ・洋服・時計) - 古銭・古紙幣/金貨・貨幣 - 骨董品・工芸品 - カメラ・レンズ - 携帯電話・タブレット etc



事務所に届いた書き損じはがき

アジアの図書館 サポーター

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続して定期的にご寄付いただけるサポーターを募っています。

1日33円/年で

カンボジアで移動図書館活動を6回行うことができます。



1日100円/年で

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプの図書館で絵本を60冊買うことができます。



1日200円/年で

アフガニスタンの図書館に本でいっぱいにした本棚を5つ設置できます。



詳しくはこちらから！

SNSで最新情報をチェック！

シャンティ国際ボランティア会検索

検索

<http://sva.or.jp>



ご支援・ご協力・連携実績



ご支援・ご協力



アジアの図書館
サポーター

新規申込125人/合計1,387人



個人からの寄付

5,297人

132,131,920円



団体からの寄付

1,865団体

209,739,649円



ボランティア・インターン

●絵本を届ける運動

事務所ボランティア/ 22人

翻訳ボランティア/ 5人

●クラフトエイド

事務所ボランティア/ 6人

●東京事務所インターン

広報課/ 6人

支援者リレーションズ課/ 2人



プロボノ・協力者

●デザイン協力

aurinco (アウリンコ) さん/ 鈴木 彩子さん/ 堀口尚子さん/ 平野 みかほさん/ 西村 直樹さん/ 森田 明奈さん/ 井山 未歩さん/ きよはら えみこさん/ 牧 純子さん/ 林 孝子さん/ シュルツハ坂由美さん/ 武居 靖奈さん

●企画協力 村井一毅さん/ 石坂泰弘さん/ 井筒敬彦さん/ 神門圭太さん/ Rinna Kinさん/ Angelika Heriyantoさん/ 宮田祐子さん

●翻訳協力 東京YWCA国際語学ボランティアズ ILVのみなさん

●写真撮影 川畑 嘉文さん/ 安井 浩美さん

●映像制作 江藤 孝治さん/ 佐藤 創我さん

●特別協力 神沢 利子先生、山田 ルイさん

外務省「日本NGO連携無償資金協力」

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ	「タイ・ミャンマー国境の難民キャンプにおけるコミュニティを通じたノンフォーマル教育支援事業」
ミャンマー	「西バゴ地域での初等教育における読書推進活動」
アフガニスタン	「初等教育改善事業」
ネパール	「ヌワコット郡、ラスワ郡の被災小学校における防災能力強化事業」

国際協力機構 (JICA) 「草の根技術協力事業」

カンボジア	「カンボジア・バタンバン州の公立幼稚園における幼児教育・保育の質の改善事業」
ラオス	「少数民族の子どもたちのための、就学前・初等教育における指導能力改善事業」 「ラオス北部地域の教員養成校指導教官の能力強化を通じた、複式学級運営改善事業」

ジャパン・プラットフォーム (JPF)

アフガニスタン	「ナンガハル県及びクナール県における国内避難民及び帰還民の子どもへの保護支援事業」 「ナンガハル県における帰還民・国内避難民およびホストコミュニティへの緊急水衛生及び教育支援事業」
インドネシア	「インドネシア・スラウェシ島被災地域における初動調査及び緊急救援物資配布事業」
日本	「平成30年7月豪雨の被害の現状及びニーズ把握を目的とした初動調査事業」

後援

「絵本を届ける運動」 文部科学省、公益社団法人 日本図書館協会、公益社団法人 読書推進運動協議会

組織概要

法人名 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
設 立 1981年12月10日
社団法人登記日 1999年8月19日
公益社団法人移行登記日 2011年1月4日

顧問

足立 房夫 一般社団法人協力隊を育てる会 顧問
公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 顧問
阿部 豊淳 宮城県・光寿院 住職
小野田 全宏 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 常務理事
川原 英照 熊本県・蓮華院誕生寺 貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
白石 孝 荒川区職員労働組合 顧問
笛岡 賢司 静岡県・龍谷寺 住職 曹洞宗静岡県第四宗務所 所長

参与

鬼生田 俊英 曹洞宗宗務総長
小林 昌道 大本山永平寺 監院
乙川 映元 大本山總持寺 監院

専門アドバイザー

大菅 俊幸 曹洞宗総合研究センター 講師
鎌倉 幸子 かまくらさちこ株式会社 代表取締役
手束 耕治 カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞(1984年) 東京都豊島区感謝状(1995年) 宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)
ソロプチミスト日本財団賞(1985年) 防災担当大臣賞(2004年) ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)
外務大臣賞(1988年) 兵庫県知事感謝状(2005年)
毎日国際交流賞(1994年) 第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年) ※2018年12月現在

参加ネットワーク一覧

国内

SDGs市民社会ネットワーク／「エクセレントNPO」をめざそう市民会議【運営委員】／ NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)【世話人】／ NGO外務省定期協議会【連携推進委員】／ NGO-JICA協議会【コーディネーター】／ NGOと企業の連携推進ネットワーク／ NGO-労働組合国際協働フォーラム／ NGO非戦ネット【呼びかけ人】／開発教育協会(DEAR)／紙芝居文化推進協議会／カンボジア市民フォーラム【世話人】／教育協力NGOネットワーク(JNNE)【事務局長】／国際協力NGOセンター(JANIC)【副理事長】／シーズ・市民活動を支える制度をつくる会／ジャパン・プラットフォーム(JPF)／地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)／震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)／東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)【副代表】／東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議【評価・策定委員】／東京ボランティア・市民活動センター【運営委員】／日本アフガニスタンNGOネットワーク(JANN)／日本NPOセンター／日本図書館協会／日本ファンドレイジング協会／日本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)／庭野平和財団【理事】
防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)／東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)／ビルマ市民フォーラム／仏教NGOネットワーク(BNN)【副理事長、事務局長】

海外

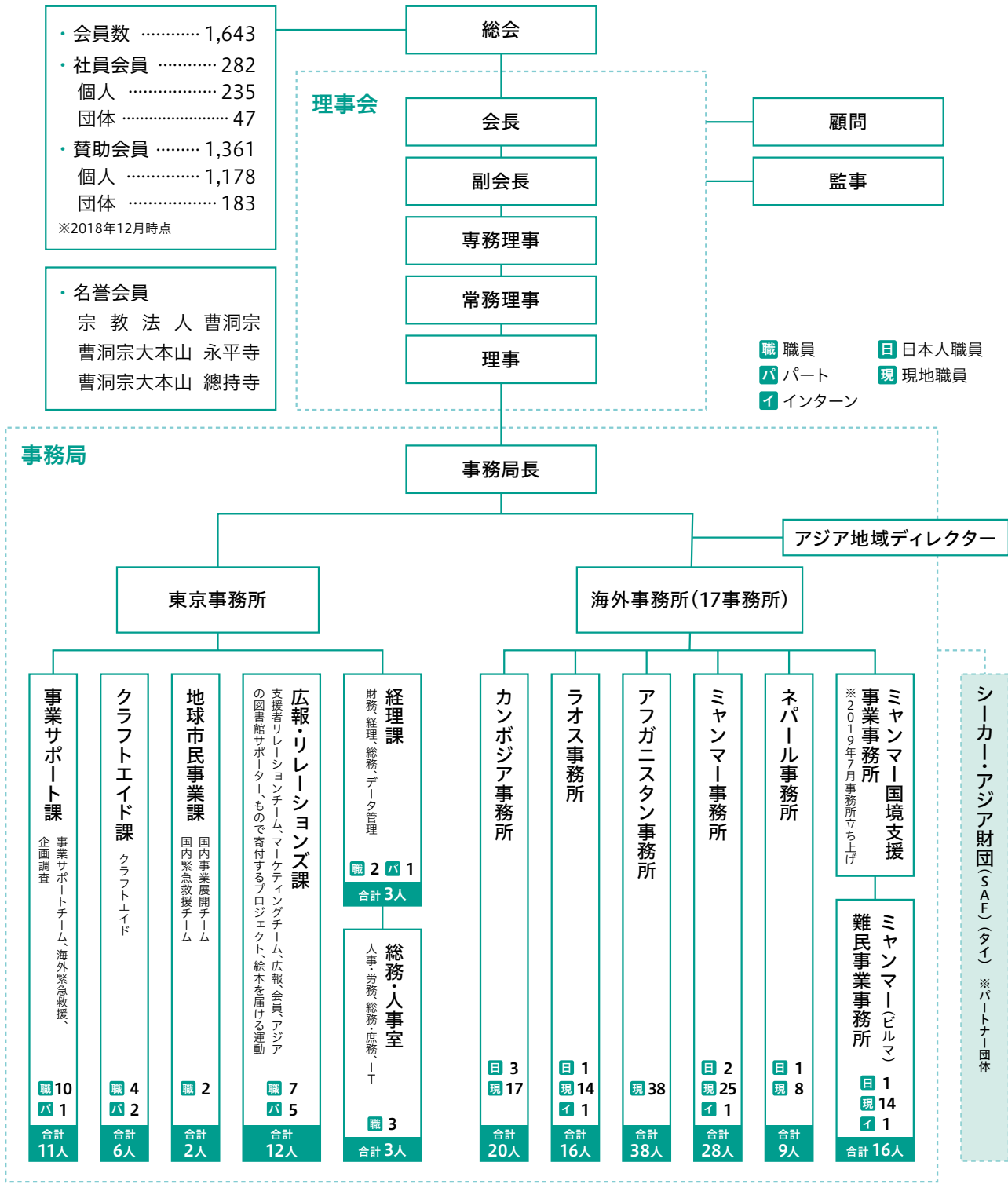
●カンボジア Cooperation Committee for Cambodia(CCC)／ NGO Education Partnership(NEP)／カンボジア市民フォーラム【現地世話人】／ Japanese NGO Worker's Network in Cambodia(JNNC)
●ラオス International NGO Network／Japanese NGO Meeting(JANM)
●ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand(CCSDP)：難民支援事業調整委員会)
●アフガニスタン Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)
●ミャンマー Japan NGOs Network - Myanmar(JNN-Myanmar)
●ネパール Association of International NGOs in Nepal(AIM)
●全体 Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education(ASPBAE)【理事】／ The Asia Disaster Reduction & Response Network(ADRRN)

※2018年12月現在

組織図

事務局員 (専務理事、常務理事除く、SAF、インターン含まず)	163人
日本人職員	47人
現地職員	116人

※2019年4月1日時点



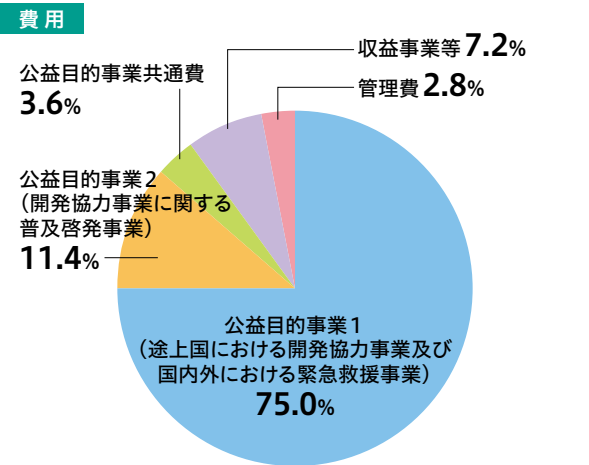
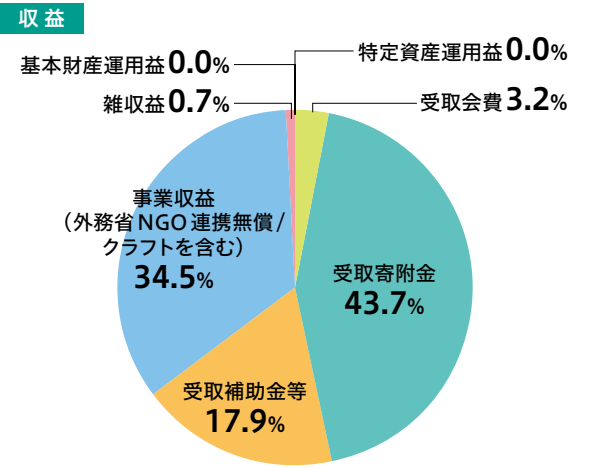
会計報告

貸借対照表

2018年12月31日現在

資産の部		(単位：円)
1.流動資産（現預金等）	114,771,469	
2.固定資産		
（1）基本財産	50,000,000	
（2）特定資産（特定預金）	362,130,104	
（3）その他固定資産（固定資産物品等）	9,775,684	
固定資産合計	421,905,788	
資産合計	536,677,257	
負債の部		
1.流動負債（預り金等）	36,111,714	
2.固定負債（退給引当金）	24,343,085	
負債合計	60,454,799	

正味財産の部	
1.指定正味財産	390,260,006
2.一般正味財産	85,962,452
正味財産合計	476,222,458
負債、正味財産合計	536,677,257



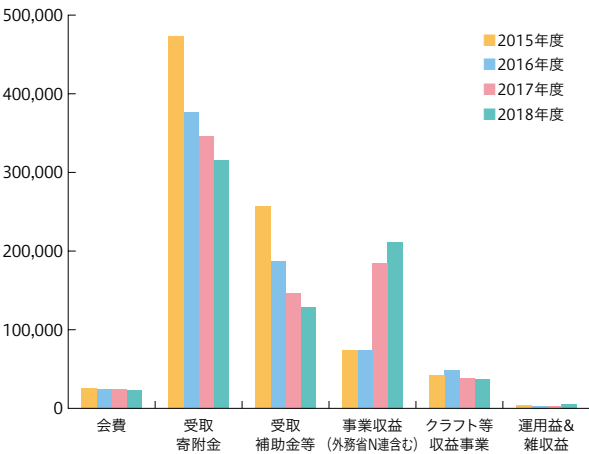
正味財産増減計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

〈一般正味財産の部〉	
経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	48,750
特定資産運用益	141,810
受取会費	23,296,000
受取寄附金	315,266,474
受取補助金等	129,056,687
事業収益 (外務省 NGO 連携無償 / クラフトを含む)	249,046,740
雑収益	4,930,643
経常収益合計	721,787,104
(2) 経常費用	
①事業費	
公益目的事業1 (途上国における開発協力事業及び国内外における緊急救援事業)	
タイ事業費	8,389,244
カンボジア事業費	63,480,642
ラオス事業費	35,763,751
ミャンマー (ビルマ) 難民事業費	47,306,155
アフガニスタン事業費	186,672,582
ミャンマー事業費	60,286,203
ネパール事業費	56,464,590
東日本大震災支援事業費	14,971,898
緊急支援費	23,988,606
海外事業支援費	51,352,969
アジアの図書館サポーター事業費	5,272,095
公益目的事業1 合計	553,948,735
公益目的事業2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	42,371,561
広報事業費	41,838,470
公益目的事業2 合計	84,210,031
公益目的事業共通事業費	26,540,935
公益目的事業合計	664,699,701
収益事業等	
クラフトエイド事業費	48,087,528
業務委託費 (コンサル)	0
本で寄付するプロジェクト事業費	5,301,127
収益事業等合計	53,388,655
管理費合計	20,428,369
経常費用合計	738,516,725
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 16,729,621
評価損益等計	0
当期経常増減額	▲ 16,729,621
経常外増減の部	
経常外収益計	0
経常外費用	7,751,470
当期経常外増減額	▲ 7,751,470
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 24,481,091
法人税、及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	▲ 24,551,091
一般正味財産期首残高	110,513,543
一般正味財産期末残高	85,962,452
〈指定正味財産の部〉	
(単位：円)	
基本財産運用益、特定資産運用益	190,560
受取補助金	356,076,981
受取寄附金	187,847,687
一般正味財産への振替額	▲ 443,894,420
当期指定正味財産増減額	100,220,808
指定正味財産期首残高	290,039,198
指定正味財産期末残高	390,260,006
正味財産合計	476,222,458

年度別収益推移表 (一般正味財産)

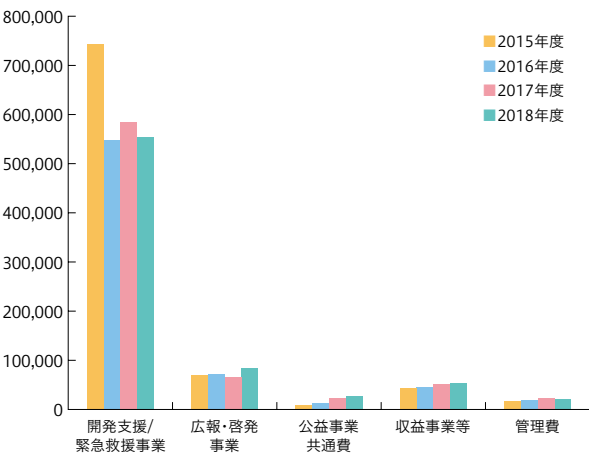
(単位：千円)				
収益	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
会費	25,903	24,941	24,364	23,296
受取寄附金	473,242	376,188	346,663	315,266
受取補助金等	256,498	186,659	146,443	129,057
事業収益 (外務省 N 連含む)	74,644	73,539	184,771	211,718
クラフト等収益事業	41,762	48,037	38,268	37,329
運用益 & 雑収益	3,587	2,769	2,311	5,121
合計	875,636	712,133	742,820	721,787



年度別費用推移表

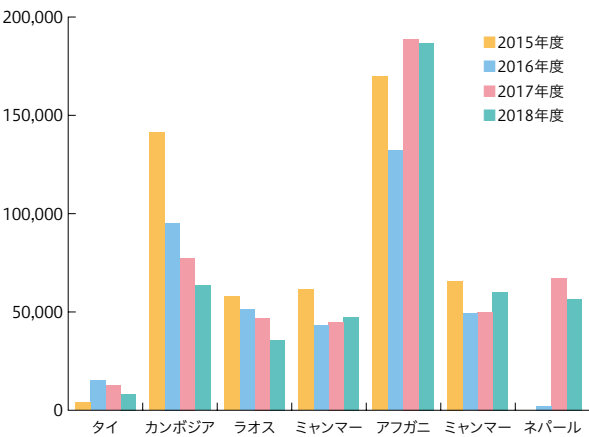
(単位：千円)				
費用	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
開発支援／緊急救援事業	743,803	548,097	584,080	553,949
広報・啓発事業	70,163	72,846	65,425	84,210
公益事業共通費	8,321	12,236	23,486	26,541
収益事業等	44,107	45,730	50,786	53,389
管理費	18,140	19,630	22,821	20,428

※ 2017 年度から開発支援事業と緊急救援事業は公益事業 1 としてまとめました。



年度別開発支援事業費推移表

(単位：千円)				
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
タイ	4,024	15,054	12,660	8,389
カンボジア	141,345	95,193	77,363	63,481
ラオス	57,945	51,211	46,888	35,764
ミャンマー (ビルマ) 難民	61,392	43,015	44,945	47,306
アフガニスタン	169,637	132,067	188,703	186,673
ミャンマー	65,859	49,292	50,021	60,286
ネパール		2,230	67,260	56,465



〔独立監査法人の監査報告書抜粋〕

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

田中義幸公認会計士事務所

平成31年2月27日 公認会計士 田中義幸

公益社団法人シャントイ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Association

2018年度年次報告書

発行日 2019年5月1日

発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館 2・3階

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220

URL www.sva.or.jp

Email info@sva.or.jp

シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。

詳しくは弊会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。

インターネットから
クレジットカードでの
ご寄付はこちらから



郵便局・ゆうちょ銀行からのご寄付はこちらから

郵便振替 00150-9-61724

加入者名 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

上記の口座は手数料が免除されている口座です。

郵便局の窓口でお振り込み手続きいただきますと手数料が免除されます。

(※ATMやゆうちょダイレクトをご利用の場合は手数料が免除されません)

「年次報告書」制作にご協力いただいた方々

制作協力：藤原 千尋(フリーライター) デザイン：佐藤 理樹(アルファデザイン) 写真：川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)